

書写山でキベリハムシ発生

木村 三郎

キベリハムシは日本産のハムシ類の中で一番大きく、たいへん美しいハムシで、成虫、幼虫ともにどことなくエキゾチック(異国的)な感じのする甲虫です。

日本古来からのハムシではなく、おそらく中国から何かについて神戸港あたりから侵入し土着したいわゆる帰化動物です。生息地は六甲山地に限られていましたが、最近ではその分布地が少し広がって県中央部に点々と発見されています。

幼虫はモクレン科のサネカズラ(ピナンカズラ)とマツブサを食べ、卵は7~8月頃食草の枝のまなになったところに卵塊で生みつけられ、そのまま冬を越す。翌年の5月初め頃ふ化し、十分に成熟した幼虫は土の中にもぐり蛹化します。

成虫は6月の終り頃から出現し、9月の初め頃まで見られます。おもしろいことにわが国では雌しか見つかっていません。従って繁殖は単為生殖(処女生殖)によっているわけです。このように雌だけで生殖できることがこのハムシがわが国に入って子孫を残し絶えなかった原因でしょう。

1976年8月1日の姫・昆第1回合同採集観察会並びに市立科学館主催の書写山生物観察会の際、円教寺の前の草上に静止していた本種を採集しました。(毎日新聞S51.9.2報道)当日他の会員並びに児童も2~3発見しており、分布が確認されました。そこで今回はこのキベリハムシの分布図と食草の関係を発表します。

この文を草するにあたり多大の資料提供ならびにご教示載いた高橋寿郎氏に厚くお礼申し上げますとともに三木順一、大道淑文、家永善文各先生、相坂耕作氏に対してお礼申し上げます。

※参考文献

- 高橋寿郎(1968) 甲虫雑記1)MDKニュース
Vol.20-No.3:3-14
高橋寿郎(1969) 甲虫雑記2)Vol.21-No.1:2-7
高橋寿郎(1974) キベリハムシ 採集と飼育36巻
4号:80-91
紅谷進二(1971) 兵庫県植物目録(六月社書房):82
神戸新聞社学芸部(1974) 兵庫探検・自然編
(神戸新聞社):268-270
森内茂・永井正身(1975) 昆虫の飼育(II)
(文研出版):75-76



①~⑳:キベリハムシ分布地
■:マツブサ分布区域確認地

- ①川西市一の鳥居 ②芦屋高塚付近(芦屋市) ③篠原・一王山十善寺(神戸市灘区) ④六甲山・高山植物園・ケーブル登山口付近(神戸市灘区) ⑤摩耶山(神戸市灘区・真谷区) ⑥布引・再渡山(神戸市真谷区) ⑦鳥原(神戸市兵庫区) ⑧旭ヶ丘・大日丸山付近(神戸市兵庫区) ⑨高取道・飯沼・多井畑(神戸市須磨区) ⑩水上郡篠ヶ峰 ⑪水上郡栗鹿峰 ⑫水上郡柏原 ⑬水上郡高見城山 ⑭水上郡石戸山 ⑮水上郡山南町 ⑯多可郡笠形山 ⑰多可郡黒田庄・黒田 ⑱神崎郡長谷村 ⑲朝来郡柳原 ⑳朝来郡小段ヶ峰高原 ㉑佐用郡船越山 ㉒宍粟郡三方町国有林 ㉓宍粟郡赤西 ㉔養父郡杉ガ沢 ㉕書写山(姫路市)

分布図の通りキベリハムシと食草の関係については、ピナンカズラよりマツブサの方が親密であるように思えます。それはマツブサの方が匂いが強く、キベリハムシを強く誘因するのではないかと思います。西播では三濃山、富樫、雪彦山、奥谷など、また東播地方の法華山、光明寺山などマツブサの分布している所で次々とキベリハムシが発見されそうです。また反面キベリハムシが発見された地にはマツブサが分布していることとしますのでぜひ発見にご協力下さい。

(S.03 飾磨郡夢前町)